

## 家族の店

### 知名オーディオ

# 唯一無一のスピーカー

文・橋本倫史

撮影・垂見健吾

のサウンドは、初めて体感する音だった。美しいフォルムをした知名オーディオのスピーカーは、空間全体を響かせ、まるで部屋の中でカルテットが演奏しているかのような臨場感を生み出していた。このスピーカーを創り出したのは、知名オーディオの創業者・知名宏師さん。1947（昭和22）年生まれの宏師さんは、幼い頃から工作が好きだった。中学生のとき、ジュークボックスから流れてきたディヴ・ブルーベックの「ティク・ファイヴ」に感銘を受け、オーディオ作りに夢中になった。

宏師さんの両親は、嘉手納町で牛乳店を営んでいた。基地が近いため、舶來の真空管やアンプは手に入りやすかった。牛乳配達を手伝い、お小遣いを貯めては工作に没頭した。学校を出たあとはオーディオ会社に就職したのち、独立。より生演奏に近い音を追究するなかで誕生したのが、円筒型のスピーカーだった。

75年の創業以来、半世紀近い歴史を誇る知名オーディオは、沖縄を代表するオーディオメーカーとなり、スピーカーユニットは沖縄市のふるさと納税の返礼品としても人気を博している。この精巧な製品が、工場で生産されているのではなく、住居の一室を使い、家内制手工業によって手作りされているのだから驚きだ。創業者の知名宏師さんがアンプを

製作し、その妻・?・さんは製品の磨き上げを担当。先代の妹・洋子さんがスピーカーを製作する。外注は一切せず、家族だけでオーディオを作り上げてきた。

2代目として知名オーディオを切り盛りする亜美子さんは、知名家に生まれ育つたわけではない。三重県は伊勢志摩の出身で、郷里で出会ったのが、初代・宏師さんの甥に当たる男性だった。

「主人と結婚してから、沖縄には毎年来てたんですけど、すごく水が合つたんです」。亜美子さんはそう振り返る。「伊勢志摩も海が近くて、漁師や海女さんが多い所ですし、捕縄の親戚も、気を遣わずに言いたいことを言い合える感じで、本当に水が合ったんですよ。だから、主人が沖縄に転勤することになって、私も一緒に喜んで引っ越しました」

家族の輪は、結婚によって広がった。沖縄市中央3の16の6（ショールーム）

技術を継承しようと、先代の弟で木工職人の知名進さんや、先代の次男・武さんと、その妻・泰子さんも加わり、家族総出でスピーカー作りに取り組んでいる。サウンドチェックに用いる楽曲は、昔と変わらず「ティク・ファイヴ」だ。

「このスピーカーは完成形で、どこも触る余地がないんですよね。それぐらい素晴らしい製品だから、スピーカーに手を加えるのではなく、ひとりでも多くのお客さんにこの音を聴いてもらうことが大事だと思っています。今はイヤホンで音楽を聴く人が多いと思うんですけど、耳だけでも悪くも後先を考えてなくて。

もしもビジネスを考える人だったら、ここまで突き詰めた製品は作れなかつたと思います。私も含めて、家族全員がこのスピーカーを素晴らしいと思ってるので、どうにか残していくたいと思つて、仕事を手伝うよくなつたんです」

先代の引退にともなつて、2022年に亜美子さんが代表取締役に就任した。亜美子さんはスピーカーの製作には携わらず、営業に専念。先代の

技術を継承しようと、先代の弟で木工職人の知名進さんや、先代の次男・武さんと、その妻・泰子さんも加わり、家族総出でスピーカー作りに取り組んでいる。サウンドチェックに用いる楽曲は、昔と変わらず「ティク・ファイヴ」だ。

「このスピーカーは完成形で、どこも触る余地がないんですよね。それぐらい素晴らしい製品だから、スピーカーに手を加えるのではなく、ひとりでも多くのお客さんにこの音を聴いてもらうことが大事だと思っています。今はイヤホンで音楽を聴く人が多いと思うんですけど、耳だけでも悪くも後先を考えてなくて。

亜美子さんが営業に取り組むようになって、県外からも注文が舞い込み始めた。家族の手で創り出す音が、海を越えて広がってゆく。



知名オーディオのスピーカーは高さ1~2mの円筒形。空間全体に音が広がり、聞く場所を選ばない。

#### 有知名御多出横（知名オーディオ）

沖縄市中央3の16の6（ショールーム）

☎ 098-938-3994

<https://www.audio.co.jp/>